

# 2023年度

# 授業概要

科目名	言語聴覚障害診断学①			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1年 通年
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚療法の評価および診断に必要な、科学的視点と方法について理解できる。							
【実務者経験】 厚生連小諸厚生総合病院、医療法人協和会、金沢大学医学部付属病院、兵庫医科大学病院、伊丹恒生脳神経外科病院、シャローム訪問看護ステーション、関西電力病院にて計33年間言語聴覚療法の臨床に携わる							
【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションが客観的で根拠のある診断・評価に基づくことが理解できる。信頼性・妥当性・正常値標準値・個体差の定義、検査の種類、情報収集の方法、情報の解釈・統合・その管理について、臨床と国家試験に必要な知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚療法の評価と診断について、理念、検査の種類と選択、情報の整理・分析・統合と解釈の過程が理解できる。国家試験に対応した問題を解くことができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	言語聴覚士の社会的責任と関連させながら、診断・評価の理念について、その概要が理解できる						教科書 配布プリント
2	言語聴覚障害の種類と特徴が理解できる						
3	ICFの枠組みと言語聴覚士の職域、言語聴覚療法に必要な診断・評価の位置づけが理解できる						
4	評価臨床に関わる倫理、臨床推論、EBPIについて理解できる						
5	障害特性に対応した評価・診断の必要性が理解できる 基本的な面接技法について理解できる						
6	評価の流れ、方法（観察法、質問紙法、検査法、機器を用いた測定）について理解できる						
7	客観性、信頼性、妥当性の概念が理解できる 数値化と尺度について理解できる						
8	正常値と標準値の定義、個体差について理解できる 検査の標準化について理解できる						
9	検査の標準化について理解できる 標準化された検査、基準検査、観察の客観的記述について理解できる						
10	言語聴覚療法臨床の流れ、スクリーニング、総合検査、掘り下げ検査について理解できる						
11	主訴の聴取、事前情報の収集の概要が理解できる						
12	初回面接の概要と留意点が理解できる						
13	評価のまとめ、結果の統合と解釈、言語病理学的診断、全体像の整理について理解できる						
14	適応の判定と予後予測、介入目標とプログラム策定、再評価について理解できる						
15	主治医・他職種への報告、当事者への情報提供・説明・同意について理解できる						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断学 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編							
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習と復習、また授業中に指定した課題（宿題）を行ってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							

## 2023年度

## 授業概要

科目名	言語聴覚障害診断学②			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間	2 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
							ST1年 通年
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚療法の評価および診断に必要な、科学的視点と方法について理解できる。							
【実務者経験】 厚生連小諸厚生総合病院、医療法人協和会、金沢大学医学部付属病院、兵庫医科大学病院、伊丹恒生脳神経外科病院、シャローム訪問看護ステーション、関西電力病院にて計33年間言語聴覚療法の臨床に携わる							
【授業全体の内容の概要】 リハビリテーションが客観的で根拠のある診断・評価に基づくことが理解できる。信頼性・妥当性・正常値標準値・個体差の定義、検査の種類、情報収集の方法、情報の解釈・統合・その管理について、臨床と国家試験に必要な知識を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語聴覚療法の評価と診断について、理念、検査の種類と選択、情報の整理・分析・統合と解釈の過程が理解できる。国家試験に対応した問題を解くことができる。							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	成人の代表的なスクリーニング検査が理解できる						教科書 配布プリント
17	小児の代表的なスクリーニング検査が理解できる						
18	代表的な検査と概要が理解できる ①成人言語領域						
19	代表的な検査と概要が理解できる ②小児言語領域						
20	代表的な検査と概要が理解できる ③成人発声発語領域						
21	代表的な検査と概要が理解できる ④小児発声発語領域						
22	代表的な検査と概要が理解できる ⑤失語以外の高次脳機能障害（成人）						
23	代表的な検査と概要が理解できる ⑥小児発達・学習認知・コミュニケーション						
24	代表的な検査と概要が理解できる ⑦摂食嚥下領域 （1）嚥下機能						
25	代表的な検査と概要が理解できる ⑧摂食嚥下領域 （2）栄養						
26	代表的な検査と概要が理解できる ⑨知能検査 発達検査 パーソナリティーの検査						
27	代表的な検査と概要が理解できる ⑩QOL ADL 生活自立度						
28	検査、評価の記録について理解できる						
29	報告書作成、カンファレンス、情報共有について理解できる						
30	情報の管理について理解できる まとめ						
	定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語聴覚療法 評価・診断学 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 小児編 言語聴覚士のための臨床実習テキスト 成人編							
【準備学習・時間外学習】 授業で行う内容の予習と復習、また授業中に指定した課題（宿題）を行ってください。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。							